



## 両腕を失って見えてきたもの ～全校集会での話～

例年より穏やかな年末です。今年一年、保護者の皆様からは多大なご協力をいただきました。改めて御礼申し上げます。

今日の冬休み前集会で次のような話をしました。

まず、この絵を見てください。これは大野勝彦さんという方の作品です。実は大野さんには両腕



がありません。その代わりに義手というのをつけてこの絵を描いています。大野さんは 44 歳まで健康で元気に農業の仕事をしていましたが、ある日、農作業を終えトラクターを洗っているとき、誤って回っているシャフトに両腕が巻き込まれ両腕が引きちぎられてしまいました。事故で両腕を失う前の大野さんは、農業を人の 2 倍も 3 倍も働き、「人の何倍も働く。仕事ができなければ男じゃない。」を信条としていたそうです。事故直後、大野さんは自分のことを「一番価値のない人間に成り下がった」とさえ思ったそうです。

大野さんには三人の子どもがいましたが、子どもたちはお見舞いに来ると、いつも明るく振舞っていたそうです。そんな子どもたちを見て、「あまりショックを受けていないようでよかった。」とほっとしたそうです。でも、その後大野さんは近所の方から子どもたちが実はとてもショックを受けて落ち込んでいたという話を聞きました。子どもたちは、お父さんに心配をかけてはいけないと、病院に行ったら楽しい話だけをしようと話し合っていたのです。それを知った大野さんは涙が溢れ止まりませんでした。



大野勝彦さん

「私は勘違いをしていました。怪我をする前は優しさのある世界にいなかった。仕事、仕事でろくに子どもたちとも遊んでいなかった。今回の事故で人間にとって最も大切なものを教えられました。」大野さんは、人間にとって最も大切な「優しさ、思いやり、感謝」に気付かされたのです。

「腕を失っても、得たものの方が大きい。もっと早く手をなくせばよかった。」とさえ思ったそうです。大野さんは、お父さんを思いやる子どもたちの優しい心に励まされ、義手をつけて絵を描くことに挑戦し始めました。そして、こんなに素敵な絵を描けるようになりました。立ち直るきっかけをくれた子どもたちに、大野さんはとても感謝しているそうです。

さて、今年もいよいよ終わります。みなさんは、今年一年間思いやりをもって過ごすことができましたか？友達やお家の人に対して優しい気持ちをもてましたか？優しい気持ちや思いやりは、相手を勇気付けることができます。元気にさせることができます。そして逆に、優しくしてもらったときに感謝の気持ちをもてましたか？「ありがとう」をたくさん言うことができましたか？来年も、この二つをしっかりとできるといいですね。よいお年をお迎えください。

